

【ご挨拶】 The Journal of Nursing Investigation 発刊にあたって

森 本 忠 興（徳島大学医学部保健学科長）

徳島大学医療技術短期大学部には紀要があったが、2001年10月、医学部保健学科改組転換されたことを契機に第11巻をもって廃刊した。その理由は、医学部内にすでに「四国医学雑誌」や「Journal of Medical Investigation」があり、これらに投稿の場が出来たこと、さらにレベルの高い学会雑誌等に投稿すべきである等の意見によるものであった。しかし、看護系教官から身近に看護学専門雑誌が必要であるとの意見が多く、学外の査読者による雑誌にして紀要よりもっとレベルの高い雑誌を目指すこと、将来の欧文誌、学会誌等を目指すことを目標にして、看護学専門雑誌「The Journal of Nursing Investigation」の発行を計画した。この度、徳島発信の本ジャーナルが完成した。

教官および研究者の業績評価は、一般的にはMEDLINE等への発表論文数、論文引用度science citation index（論文当たり引用回数）等で行われている。理想的には、個人の論文の引用度Personal citation reportで評価できれば良いが、データが入手困難であり、通常は各論文をインパクト・ファクター（アメリカISI社が製作、世界中の約5500誌のある雑誌が一論文当たり何回引用されているかを示すもので、雑誌ランキングといえる）の合計で評価することが多い。日本の看護系雑誌は、商業誌、看護学会関係雑誌、大学紀要、その他等を含めて約200誌

あるが、ほとんど邦文誌であり、本邦唯一の英文誌は、平成11年に山口大学から発刊された「Nursing and Health Sciences」のみである。インパクト・ファクターはMEDLINE等収録の約5500の英文雑誌から算出したものであるが、英文論文でなければインパクト・ファクターがつかない。今後、これに収載されるためには英文誌となる必要がある。

来年度から国立大学法人化に伴い、第三者の大学評価機構による外部評価があり、予算配分も教官業績を反映させるものになる。また、各大学での教官任期制導入により業績の客観的評価が必要となっており、今後は看護系教官の業績評価のみは他の分野とは異なるのだという言い訳はできなくなるであろう。また、大学や大学院設置審における看護系教官審査の審査基準は不透明な点もあるように思われる。平成14年度には、日本の国公私立看護系大学は107大学、大学院修士および博士課程は、各々68大学、21大学になったが、さらに看護系大学が設立されている。今後、大学生き残りのための大学間の激しい競争も予想される。看護系教官業績の客観的評価基準作りができる環境整備、その評価基準作りを行うことが必要である。我々のジャーナルもよりレベルの高いものになり、評価に耐える雑誌になることの努力を願って止まない。